

日本分析化学会第64年会

1 はじめに

日本分析化学会第64年会は、2015年9月9日から11日までの3日間、九州大学伊都キャンパスにて開催された。福岡での開催は2008年に福岡大学で開催された第57年会に続いてのことである。学会開催1週間前の天気予報では平年より少し気温が低く晴れたり曇ったりという絶好の学会日和ということで期待していたが、6日に台風18号が突如発生し、北上に伴い、8~11日にかけて東海から東北地方に甚大な水害をもたらした。福岡でも台風と秋雨前線の影響で断続的な雨と強風が続き開催が危ぶまれたが、九州内の交通機関への大きな影響は発生せず、なんとか開催にこぎつけることができた。台風の影響で甚大な被害を受けた関東・東北地域の皆様や参加できなかった方々には心よりお見舞い申し上げます。

九州大学伊都キャンパスには工学部が先陣を切って2005年より移転を開始した。今年で11年目になるが、10月に理学部が開講予定で引っ越しの真っ只中にあり、平成30年度に農学部に移転という、あわただしいキャンパス移転中での開催であった。都心から離れてお

り宿泊・交通が不便であるにもかかわらず、総講演数は724件(研究懇談会講演, 受賞講演, シンポジウム講演を含む), 参加登録者数は1,100名であり, 例年並みの盛会であった。

2 講演

[プログラム担当: 山口敏男(福岡大学理学部)・甲斐雅晃(長崎大学薬学部), 会場担当: 古屋謙治(九州大学基幹教育院)・森健(九州大学大学院工学研究院)・藤川茂紀(九州大学カーボンニュートラルエネルギー研究所), 若手ポスター責任者: 松井利郎(九州大学大学院農学研究院)]

依頼講演(39件), 一般講演(225件), 若手講演(70件)が, センターゾーン2号館の12会場で行われた。本年度は, ポスター発表の時間帯に口頭発表を基本的に行わない, ランチョンセミナーの時間帯にも口頭発表とポスター発表を基本的に行わない, という方針でプログラムを編成した。

研究懇談会は, 1日目の午前に7件, 午後に2件, 2日目の午前に3件, 3日目の午後に1件の合計13件が開催され, それぞれの世話人のアレンジによる講演が行



九大伊都キャンパス(会場)



口頭講演会場



受付付近の様子



ポスター会場

表1 第64年会分類別講演申込および聴講者一覧表

分類	依頼講演	一般講演	若手講演	テクノ(口頭)	テクノポスター	一般ポスター	若手ポスター
01: 原子スペクトル分析	2	21	1	1	1	8	2
02: 分子スペクトル分析	2	9	3			6	18
03: レーザー分光分析	2	5	7				3
04: X線分析・電子分光	0	8	5			1	7
05: 放射化学分析						1	2
06: NMR, ESR, 磁気		1					
07: 電気化学分析	2	19	6			4	9
08: センサー	2	12	6			2	9
09: 熱分析						2	
10: 有機微量分析							
11: 質量分析	1	4	2			6	1
12: マイクロ分析系	4	13	3				7
13: FIA	2	5	6			2	1
14: LC	3	6	4	1		21	8
15: GC		3				2	
16: 電気泳動分析	2	4	3			1	2
17: 溶媒・固相抽出法	3	5	2			8	16
18: 分離・分析試薬	0	4	3			3	5
19: 分析化学反応基礎論	0	4	2			1	3
20: データ処理理論							
21: 標準試料	1	3					
22: サンプリング, 前処理		1				3	
23: 界面・微粒子分析	5	22	7			3	14
24: 宇宙・地球	2	13	1			3	
25: 地球環境関連分析	2	15	3			11	13
26: 無機・金属材料分析		3				7	
27: 有機・高分子材料分析	0	2		1		6	
28: 生体・医薬・臨床	0	5	1			11	8
29: バイオ分析	4	32	9		2	7	15
30: その他		6			1	13	2
合計	39	225	74	3	4	132	145

われた。

ポスター発表は、初日と3日目に分けて行われた。初日の午前中は、80件の若手ポスター発表が行われた。午後は一般ポスター54件、アジア分析科学シンポジウム(ASAS)ポスター10件、テクノレビュー4件という混合形式をとることで、異分野交流を深め活性化につながる試みが行われた。

3日目の午前中には、若手ポスター(67件)に交じて企業から12件のポスター発表をしていただき、一般参加者のみならず学生との交流を促すような仕掛けが試みられた。また、若手ポスターについてはポスター賞を設け、147件の中から厳正な審査により18名がポスター賞に選出された。

また場内は企業展示も併設し、一般参加者、学生、産業界の交流が深められるように配慮された。ポスターボードは間隔を開けて設置し、隣同士の発表に支障がないように配慮された。

本部企画の「第2回アジア分析科学シンポジウム2015」ならびに業界シンポジウムとして「産学官連携による産業界の分析課題解決」(第1部)と「企業活動を最前線でリードする分析化学」(第2部)が行われた。また第64年会実行委員会企画の第1部~第3部の特別シンポジウムが開催された。

(1) 「第2回アジア分析科学シンポジウム(2nd Asian Symposium on Analytical Sciences)」(9月9日午前~10日午前)

[オーガナイザー: 内山一美(首都大院都市環境), 最大聴講者数50名]

寺前紀夫前会長によるOpening addressの後、分析化学の第一線で活躍中のアジア地域の研究者による、Plenary lecture(3件)とInvited lecture(24件)、今回新たに募集した一般講演(8件)とポスター発表(10件)が専用会場を含め複数の一般講演セッションに組み込む形で行われた。

(2) 【特別公開シンポジウム: 産業界シンポジウム】

第1部: 「産学官連携による産業界の分析課題解決」(9月9日午前)

[オーガナイザー: 川畑 明(三菱化学テクニサー), 最大聴講者数150名]

川畑 明(三菱化学テクニサー), 松村 晶(九大院工・九大超顕微解析セ), 山本竜広・新海征治(九州先端研), 山中桜子・後藤雅宏・水野恒政(ココカラファインネクスト・九大院工), 岩倉宗弘(九州計測器), 伊神 恒ら(九州プロサーチ)による、伊都キャンパス地域で展開されている産学官連携の研究開発、分析・解析に係るネットワークや支援の取り組みについて紹介があった。

第2部: 「企業活動を最前線でリードする分析化学」(第2部)(9月9日午後)

[オーガナイザー: 加納健司(京大院農)・脇坂達司(花王), 最大聴講者数200名]

小田吉哉(エーザイ), 望月直樹(アサヒグループホールディングス), 佐川岳人(エスビー食品), 絵面智宏ら(理研ビタミン・農研機構食総研), 本山 晃(資生堂リサーチセ), 小澤智行(日産化学)の6名の講師の方々に、分析化学が企業の研究開発・商品化をどのようにリードし、どのような事業貢献をしているかについての実例を紹介していただいた。

また今回は、3日目午前中の若手ポスターセッションに交じて、産業界から12件のポスター発表をしていただいた。産業界における分析関連の取り組みが学生にも直接伝わる斬新な試みであった。発表いただいた方々は以下のとおりである(敬称略): 小池 亮(花王解析科学研), 波多野成児(富士フィルム), 脇坂達司(花王), 沖 充浩(東芝研開セ), 岩畑大悟(味の素), 西野宮卓(新日鐵住友先端研), 安孫子勝寿(豊田中研), 菊間 淳(旭化成基盤研), 百瀬 陽(三菱レイヨン), 川根 航(島津CG材解セ), 中村立二(エーザイBPM), 佐藤信之(東レリサーチセ)。

(3) 特別シンポジウム

〈第1部〉「病態解明のための生体機能イメージング法の開発」(9月9日午後)

[オーガナイザー: 片山佳樹(九大院工), 最大聴講者数50名]

浦野泰照(東工大院薬), 兵藤文紀ら(九大レドックスナビ拠点), 村田正治(九大レドックスナビ拠点・九大院医先端医療医学・九大先端医療イノベーションセ), 三浦大典(九大レドックスナビ拠点), 向井英史(理研CLST)の5名の講師の方々による講演が行われ

た。

(第2部)「乱用薬物の実態とその健康リスク」(9月10日午前)

[オーガナイザー：中島憲一郎(長崎国際大薬), 黒田直敬(長崎大院医歯薬) 最大聴講者数 120名]

三木昭宏(大阪府警科捜研), 花尻瑠理(国立衛研), 和田光弘(九保大薬), 松尾憲介(九州厚生局麻薬取締部小倉分室)の4名の講師の方々に、現在、社会的に非常に問題となっている危険ドラッグの乱用の実態、取り締まりの現状、検出・定量手段、および健康リスクに関して、それぞれ専門の立場からの講演が行われた。

(第3部)「中性子をプローブとする分析化学の新展開」(9月10日午前)

[オーガナイザー：山口敏男(福岡大理), 最大聴講者数 60名]

今井英人(日産アーク), Stefanus Harjo(原子力機構), 篠原武尚(J-PARC), 中村優美子(産総研), 田中敬二(九大院工)の5名の講師の方々による講演が行われた。

4 付設展示会, ランチョンセミナー, テクノレビュー

九州大学カーボンニュートラルエネルギー国際研究所1階のホールとロビーで付設展示会が開催された。今回は機器展示に22社(24ブース), 書籍販売に1社, カタログ展示に6社(6件)のご協力をいただいた。本年度は、ポスター発表も同一会場で行われ、展示会場は多くの来場者で賑わっていた。

初日と2日目の昼に、6社によるランチョンセミナーが開催された。お弁当を食べながら各企業の最新技術や商品に関するセミナーを聞くことができる大変魅力的な企画であり好評であった。また今回の年会では、テクノレビュー講演(口頭3件, ポスター4件)が行われた。

5 名誉会員推戴式, 学会賞等授賞式, 学会賞講演など

名誉会員推戴式, 学会賞授賞式ならびに学会賞受賞講演は、九州大学100周年記念事業の一つとして建設された椎木講堂のホールで行われた。開催に先立ち、九大



展示会場



授賞式等

フィルによる弦楽四重奏の演奏が行われ、厳かな雰囲気醸し出された。鈴木孝治日本分析化学会会長の挨拶、5名の新規名誉会員推戴の後、学会賞、奨励賞、学会功労賞、技術功績賞、先端分析技術賞(JAIMA 機器開発賞, CERI 評価技術賞), 有功賞の審査結果が各審査委員長から報告され、受賞者に賞状と副賞が授与された。授賞式の後、伊都キャンパス入口に設置された書道家柿沼康二氏による「九州大学」の文字が刻まれた石碑を囲んで、有功賞受賞者の記念撮影が行われた。その後14時30分より、大塚利行氏, 岡田哲男氏, 馬場嘉信氏による学会賞受賞講演が行われた。技術功績賞の中山茂吉氏, 渡辺光義氏, 奨励賞の石松亮一氏, 植田郁生氏, 佐々木直樹氏, 高橋康史氏, JAIMA 賞の金誠培氏, 玖珠仁氏, CERI 賞の渡邊卓朗氏の受賞講演は、関連する一般講演会場で行われた。

6 ミキサーおよび懇親会

ミキサー[責任者：横山拓史(九州大学大学院理学研究院)]は、1日目の18時30分より約60名の参加を得て、口頭会場の地下にあるビッグサンドで行われた。九大オリジナルの九州大吟醸やいも九焼酎も提供された。フランクな雰囲気の中で交流が行われた。

懇親会[責任者：吉村和久(九州大学名誉教授)]は、2日目の18時30分より、ホテル日航福岡(福岡市博多区)で開催された(参加者335名)。司会進行は松森信明(九州大学大学院理学研究院)が務めた。山田淳実行委員長, 鈴木孝治会長, ならびに来賓として片岡信義日



ミキサー会場



懇親会：脇田名誉教授による乾杯のご発声



施設見学会

本分析機器工業会事務局長、久保千春九州大学総長の挨拶の後、ステージ上に福岡を代表する酒造メーカーの一つである小林酒造の萬代の樽が用意され樽酒鏡開きが行われた。会場内の各テーブルにも同じ樽酒が準備され、脇田久伸福岡大学名誉教授のご発声のもと、日本酒による乾杯で懇親会が開宴した。また会場内の屋台では、博多名物のもつ鍋、ラーメン、寿司などが提供され大変好評であった。会の終盤では、次年度開催予定の第76回分析化学討論会の宇野文二実行委員長(岐阜薬科大学)、第65年会の田中俊逸実行委員長(北海道大学大学院地球環境科学研究院)より挨拶をいただいた。最後に、肥後盛秀九州支部長(鹿児島大学工学部)の挨拶で閉会した。

7 その他

第6回生涯分析談話会[世話人：田端正明(佐賀大)・長谷川佑子(東理大)]が初日の午後に開催された。この談話会は、分析化学会員が退職後も学会に参加し、相互の交流と親睦をはかることを目的としており、今回は、鎌田薩雄氏(鹿児島大学名誉教授)による講演と懇親会(KKR福岡)が行われた。

また初日の午後に、公開セミナー「女性研究者ネットワークセミナー」[世話人：金澤秀子(慶応大薬)]が行われた。会場には福岡の銘菓やソフトドリンクが提供され、和やかな雰囲気の中、川畑明氏(三菱化学テクノロジー)による講演が行われた。

また、託児所には4件の利用者があり、男女共同参画の取り組みが評価される学会でもあった。

一昨年の第62年会(近畿大学)から試行されてきた発表形式である若手ピギナー口頭(講演7分、討論3分)を継承するとともに、学会活性化戦略委員会からの提言に盛り込まれていたPI(Principal Investigator)講演に相当する依頼講演(講演15分、討論5分)の発表(39件)も継続実施した。

また、本部企画の「第2回アジア分析科学シンポジウム2015(2nd Asian Symposium on Analytical Sciences)」は、実行委員会との緊密な連携のもと、同一会場における2日間の口頭講演と並行する形で、若手ポスターセッションに交じってのポスター講演(10件)はもとより、一般講演会場の中の4会場において

シンポジウム講演セッションを設けるなど、アジア地域における研究者との研究交流を深めるとともに活発な議論が可能となるようにプログラムを編成した。今後より成熟した取り組みが進められることを期待する。

もう一つの重要な試みとして、本会における産業界の貢献をより具現化できるように、産業界が主役の特別公開シンポジウムをはじめ、産業界とアカデミアの相互交流をより強化拡充するための取り組みを実施した。まず、特別公開シンポジウムとして、本部主催の「企業活動を最前線でリードする分析化学」と、実行委員会主催の「産学官連携による産業界の分析課題解決」を開催した。3日目には、若手ポスターに交じって産業界からもポスター発表をしていただき、学生との交流を促す試みを行った。さらに2日目の午前中には、伊都キャンパス地域における産学官連携の分析解析支援に関する取り組みの紹介として、西鉄ビルマネジメント様および三菱化学テクノロジー様の協力による施設見学会が実施された。福岡市産学連携交流センター分析機器室、九州大学の超高圧電子顕微鏡施設、中央分析センター、ナノテク関連施設の見学が行われ、大変好評であった。今後、本学会において産業界からの参画がより拡充されるための魅力ある企画が行われ、本学会の活性化が加速されることを期待する。

8 おわりに

強風と雨の悪天候の中、年會に参加された会員の皆様、ならびに展示に出展していただきました企業関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。大過なく年會を終えることができましたことは、2年にまたがる準備から当日の運営等にご尽力いただいた日本分析化学会九州支部を中心とする実行委員会委員の皆様とアルバイト学生の皆様の賜物です。九州大学カーボンニュートラルエネルギー国際研究所をはじめ多くの部署にもご支援いただきました。また、都心から離れている新しいキャンパスであるため、食事や交通に多大なるご理解とご協力をいただきました関連各位にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

九州大学大学院工学研究院
山田 淳, 米村弘明, 高橋幸奈